

ボランティア活動論	必修/選択: 選択必修	単位数: 2	担当教員	及川 真一		
	開講時期: 1年後期	時間数: 30	所 属	介護福祉学科		
	授業形態: 講義・演習		研究室番号	312 共同研究室		
授業の目的	到達目標	DP との関連				
		1	2	3	4	5
ボランティア活動の意義や役割、実践の歴史を学び理解すると共に、実践から学び、ボランティアに求められる知識と適切な心構えを身につけ専門性を発揮できる能力を涵養する。	1. 地域社会の課題を知ることができる。	○				
	2. ボランティア活動方法について理解を深め、広い視野を養うことができる。	○				
	3. 災害ボランティア活動の役割と機能を説明することができる。	○				
	4. 避難所支援に必要な技術(テント設営・炊き出し)を身につける。		○	○	○	○

授業内容

回	テーマ	内容
1	ボランティア活動とは	ボランティア活動の意義、「弱点」と「魅力」について
2	あなたと社会とボランティア	ボランティア活動の歴史とボランティアリーダーシップについて
3	高齢者・障がい者問題とのかかわり	高齢者・障がい者問題とボランティア活動について
4	児童問題とのかかわり	児童問題と地域社会ボランティア活動について
5	災害とボランティア	災害ボランティア活動の取り組みについて
6	東日本大震災における災害ボランティア活動について①	東日本大震災と災害ボランティアについて
7	東日本大震災における災害ボランティア活動について②	災害時に活かすことができる支援環境の整備 テーマ「復興が/で取り戻すべきものは何か？」 (グループワーク)
8	東日本大震災における災害ボランティア活動について③	災害時に活かすことができる支援環境の整備 テーマ「被災者の痛みを理解することは可能か？」 (グループワーク)
9	東日本大震災における災害ボランティア活動について④	災害時に活かすことができる支援環境の整備 テーマ「絆から考える、絆は人を救うのか？」 (グループワーク)
10	熊本地震における災害ボランティア活動について	熊本地震と災害ボランティアについて
11 ～ 15	災害時の避難所設置と運営を学ぶ	・災害時のボランティアの心構え ・災害に対する身の周りの備え ・アウトドアスキルと防災について

授業の方法 本授業は、講義形式を基本として、演習を交えながら進める。講義は、テキストとパワーポイントによる資料提示及び配付資料を用いて展開します。演習は、グループワークを行います。

予習 前回授業で提示したプリントの部分を必ず読んでおくこと(60分)。

復習 配付した資料を読み返し、学習した内容を振り返る(60分)。

成績評価方法・基準、課題等のフィードバック 課題レポートを(100%)、として評価を行う。課題レポートは第7・8・9回目に実施して、それまでの授業内容に関係する課題で評価を行う。提出されたレポートについては、コメントを付して返却します。

テキスト 及川真一『防災キャンプのすすめ』秋田魁新報社、2016。

参考文献 小倉常明・松藤和生『いちばんはじめのボランティア』樹村房、2004。
巡静一『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規出版、1997。

履修要件 特になし。

履修に際しての留意点 11回～15回目の授業は、本学の体育館・グラウンドで行う演習となっていますので、動きやすい服装で参加してください。

学生へのアドバイス 人と人との関係が希薄になっていく現代社会の中で、共にかかわり合うボランティアの存在はますます大事なものとなります。理論と共に、社会の課題を学び合いましょう。

